



総合資源エネルギー調査会 基本政策分科会

青年環境NGO Climate Youth Japan

目次



- Climate Youth Japanとは
- Climate Youth Japan の提言の背景
- Climate Youth Japan の提言
- 「長期的視点」に関する視座
- 2040年に向けたエネルギー政策に対しての意見

Climate Youth Japanについて



Vision

「ユースが気候変動問題を解決へ導くことで
衡平で持続可能な社会を実現する」

- 国連気候変動枠組条約締約国会議(COP)への参加
 - 例年5～6人が派遣
 - Japan Pavilionでの登壇
- LCOY(Local Conference of Youth)を共同開催
 - 環境に関するワークショップや講演会、政策提言の作成
 - 各国のLCOYで作成された提言はCOYの場で集約
 - 2024年は8/3～8/11の約1週間に渡って開催



Climate Youth Japan の提言の背景



事例:太陽光パネルの「2030年問題」

FIT制度の下で設置したモジュールが一定の寿命を迎え、使用済み太陽光パネルとして排出された場合、2030年代後半以降、年間 50~80万tが排出されると想定されている。

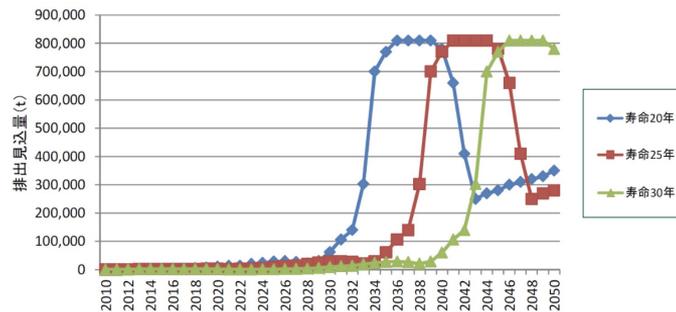
引用:「再生可能エネルギー発電設備の廃棄・リサイクルに係る現状及び課題について」(環境省023/4)

<https://www.env.go.jp/council/content/03recycle03/000183808.pdf>

使用済み太陽光パネルの大量廃棄による問題

1. 最終処分場の逼迫
2. 放置・不法投棄の増加
3. 有害物質の流出

使用済み太陽光パネルの排出量推計 (環境省推計)



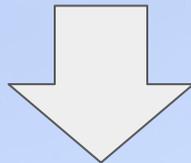
引用:「再生可能エネルギー発電設備の廃棄・リサイクルに係る現状及び課題について」(環境省023/4)

<https://www.env.go.jp/council/content/03recycle03/000183808.pdf>

Climate Youth Japan の提言の背景

＜実際の太陽光パネルのリサイクルに関する政策動向＞

- 平成28年:ガイドラインを策定
- 今年 :リサイクルが義務化



＜理想の政策＞

FIT制度がスタートした当初から
リサイクル・廃棄に関するガイドラインの制定をすべきだった

Climate Youth Japan の提言



Climate Youth Japan の提言

課題解決のための政策を導入する際に、将来生じ得るであろう別の課題について網羅的に議論できていない状態を回避してほしい(長期的視点)

S+3E



長期的視点

両方のバランスを考慮した政策(SLEEE)

「長期的視点」に関する視座



現状のエネルギー政策の基本原則に「長期的視点」を加えた
SLEEE視点(S+3E視点 + 長期的視点)を導入し、
それを用いて個々の政策を評価する。

2040年に向けたエネルギー政策に対して(原子力発電)



再生可能エネルギーは安定して大きな電力を得られないものが多く、化石燃料依存からの脱却をするには安定的なエネルギー供給が成り立たないのが現状

原子力発電所の運転停止を続けることは、経年劣化やノウハウ継承のリスクなどの観点からも懸念がある

But!

原発事故は環境へ不可逆な変化を与えるものであり、利用再開への賛成が増えていることは対策の歩みを緩める理由にはならない

安全性

透明性

合意形成
プロセス

2040年に向けたエネルギー政策に対して(原子力発電)



「短期利用」には賛成

But!!

- 既存原発施設は遅くとも2060年頃までに寿命を迎える。
- 再生可能エネルギーと比較するといずれは経済的にも劣ると予想される。

まず安全な廃炉法の確立や
新たなエネルギー技術の開発などに
費用、労力を割くべき

「長期利用」には反対

安全性、気候変動影響、供給安定
性、安全性、地政学などの
社会情勢を考慮しながら
使用量を決定

2040年に向けたエネルギー政策に対して(リデュース)



データセンターの増加や電化などを背景として、ある程度の電力需要の増加が見込まれている



**エネルギー効率の上昇による消費量削減だけでなく、
エネルギー需要量自体を減少させることが最優先**



エネルギー需要量の削減についてより強く言及、具体的な施策の提示